

## プロ野球の誤審問題

2年 若林拓実  
榎 健介

### 1、現状分析、現状の把握

近年プロ野球の誤審が目立つようになっている。確かにスポーツにおいて絶対的な地位で公平な立場でジャッジする審判が必要である。でなければ試合もスムーズ、円滑には進まない。しかし、私達ファンの目から見てもおかしいと思える判定がある。最近のものでは10月27日の日本シリーズ第2戦目の巨人対楽天である。藤田選手の打ったセカンドゴロがセーフになっている。(画像あり)

誤審例 2012年日本シリーズ巨人対日ハム 2013年阪神対中日 1992年阪神対ヤクルト 2007年ロッテ対日ハム 2007年広島対阪神 1999年 巨人対広島など

上の例は、ほんの一部である。セリーグでは1990年、パリーグでは1996年から審判の数が6人制から4人制に変わっている。例をみるとこれが原因の一つと考えられる。

またこんな例もある。野球規則の審判員の裁定には「審判員の判断に基づく裁定は最終のものである」と書いてある。しかし2012年11月1日第5戦の日本シリーズ巨人対日ハムで、加藤選手に対して一度はファールと判定したにも関わらず加藤選手が痛がり頭部死球をアピールした。すると判定はデッドボールとなり投手は危険球退場となった。審判の裁定は最終ではないのか。

審判に制裁を下すこともある。2006年に選手交代を間違え、3万円の罰金、2001年には立て続けに誤審をし、10日間の謹慎、2009年にはボールカウントを間違え給料30%減給。しかし、私達の取り上げた誤審には制裁はないようだ。

### 2、課題・問題と考える物事

誤審がおこり、選手や監督が抗議をし、一番熱い気持ちになるのはファンなのではないだろうか。応援しているチームが勝っても負けても誤審の騒動があればスッキリしないだろう。ネットなどに審判や選手の悪口を書き込み、それをみたほかのファンも、もやもやした気持ちになり、あの審判は駄目だと洗脳してしまう。選手や監督も勝つためにやっており誤審を抗議する気持ちも分かるがファンあつてのプロ野球なのではないのだろうか。そこでプロ野球ファンの友達に誤審についてインタビューしてみた。Aくん「判定は覆らないのだから、時間がかかればかかるほど審判にイライラしてしまう。」

Bくん「確かに、誤審は嫌だけど、自分のチームが不利な誤審は抗議し、有利な誤審は何も言わないのならばある意味公平なのではないか。」

審判も人間なのだから、誤審をなくすことは無理だろう。ならば審判の絶対的地位を高め、監督や選手の抗議を禁止にすればよいのではないのだろうか。もちろん、選手とファンが納得する審判の技術向上をはかり、絶対的な地位があるため、カメラの導入はできないが、6人制にすることが条件である。抗議がなく選手が審判の裁定を受け入れればファンも納得するのではないだろうか。

### 3、解決方法・解決策

- 1、審判の技術向上
- 2、6人制の再導入
- 3、選手監督の抗議禁止
- 4、ファンを一番に思うこと

### 4、到達目標・あるべき姿

スポーツにとって大切な審判が批判されるような自体がなくなり、ファンが気持ち良く観戦できるプロ野球にする。